

## 学校安全総合支援事業報告書【防災に関すること】

学校名「 熊本県立球磨支援学校 」

住所：熊本県球磨郡多良木町大字多良木4217番地

電話：0966-42-3792

### I 学校の基本情報

○生徒数：76人（19学級）  
○職員数：60人  
○熊本地震（または令和2年7月豪雨）時の状況  
本校に隣接する奥野川（球磨川支流）が増水。校舎の浸水被害なし。電気、水道、ガス等の被害もなし。  
人吉市内に居住する複数の児童生徒宅が被災。児童生徒、同居家族の安否と被害状況の確認は、各担任が電話で行った。学校は、令和2年7月14日から再開。

### II 取組の概要

#### 1 安全教育手法の開発・普及

##### (1) 防災教育の実施

防災教育については、カリキュラム・マネジメントの視点を持ち、定期的な訓練と教科横断的な防災教育を推進した。児童生徒が体験的に学んだり、自分自身の生活を振り返ったりしながら、実践に繋がる指導となるよう取り組んだ。

2学期に実施した防災教育公開授業では、小学部1・2年生を対象に、雨に焦点を当て「みんなで防災やってみよう！～雨が降ったらどうするの？～」というテーマで学習を行った。授業では、雨の日や晴れの日空の様子、天気を表す言葉やマークに触れ、雨が降ったときに使うと便利な雨具（傘、雨合羽、長靴）についてクイズをしながら考えた。



○各学部における防災に関する学習内容

#### 小学部（生活科・特別活動）

- ・地震・火災・弾道ミサイル発射時のサイレン音や身の守り方、避難場所等
- ・頭巾やヘルメットの使い方
- ・天気、雨や水害について
- ・備蓄
- ・誘導灯 等

#### 中学部（社会・特別活動）

- ・災害の種類、身の守り方
- ・マイタイムライン
- ・自宅周辺ハザードマップの確認
- ・非常時の備え（備蓄、手作り防災グッズ）
- ・AEDの使い方、校内のAEDの場所
- ・消火器の使い方、校内の消火器の場所
- ・避難所体験
- ・誘導灯 等

#### 高等部（社会・理科・保健・家庭科）

- ・災害の種類、身の守り方
- ・自宅周辺や通学路のハザードマップ、避難場所の確認
- ・気象防災情報と警戒レベル
- ・マイタイムラインの作成
- ・非常時の備え
- ・心肺蘇生法
- ・応急手当
- ・AEDの使い方、校内のAEDの場所
- ・消火器の使い方、消火器の場所
- ・地震の仕組み 等

##### (2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

月に1回の初期対応訓練（地震・火災・弾道ミサイル）及び学期に1回避難訓練（地震・火災・地震火災抱き合わせ）を実施した。

2学期に実施した公開避難訓練（地震）では、実践的な避難訓練ということで、震度5弱を想定し、倒壊箇所があり、校内に残留者がいるという設定で実施した。当日は雨天だったため、校内に倒壊箇所（ガラスが割れる、棚等が倒れる）を設定し、どの学部にも避難途中に倒壊箇所があるようにした。倒壊箇所や倒壊状況の詳細についての職員への事前周知は行わず、安全な避難経路をその場で判断しながら避難するよう取り組んだ。また、各学部に、校内に残留者、救護を必要とする残留者がいる想定で実施し、連携方法や連絡手段、伝達する情報内容を全職員で事前に共通理解を図って訓練を行った。

訓練後の消防署からの講評は、学部毎に行った。児童生徒の実態に応じた振り返りとなるよう、事前に消防署と内容等を打ち合わせて取り組んだ。

当日は、県教育委員会、近隣消防署、学校安全アドバイザー、多良木町役場、近隣小中学校、学校運営協議会委員等、多くの方に参観していただくことで、合評会では様々な視点からのお気付き、御助言をいただいた。



4月に、地震時を想定した引き渡し訓練（ドライブスルー形式）を実施した。職員で「保護者」「児童生徒」「学校職員」に役割分担し、引き渡しカードを活用した訓練を行った。



### (3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

- ア 防災主任研修会、学校安全主指導者養成研修会の参加
- イ 県教育委員会や学校安全アドバイザー等からの指導助言
- ウ 公開授業・公開避難訓練の実施
- エ 公開授業・公開避難訓練の参観
- オ 先進地視察の参加
- カ 防災教育・防災管理の校内体制の計画、分掌部における役割分担
- キ 消防署など地域関係機関や関係者との連絡調整・連携の推進

### (4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

- ア 危機管理マニュアル・学校安全計画の作成・見直し
- イ 危機管理マニュアルや、避難マニュアルに基づいた実践的な避難訓練や防災教育に関する行事の実施

### (5) AEDを用いた心肺蘇生法

近隣の消防署から講師として来校いただき、全職員を対象に心配蘇生法、AED使用方法についての実技を行った。（6月）高等部では、配付されたAED+CPRトレーニングキットを授業で活用して、学習を行った。

## III 取組の成果と課題

### 1 安全教育手法の開発・普及

#### (1) 防災教育の実施

##### ア 成果

公開授業をきっかけに、小学部ではこれまで防災学習の中で取り扱っていなかった雨や水害に関する学習を行った。授業を行うにあたって、小学部職員で、子供たちの姿や保護者の願いを

踏まえながら「防災教育で身に付けた力」を出し合い整理し、授業の検討を行った。事前に共通理解を図ったことで、各学級における授業のねらいや指導のポイントを整理することができた。



授業では、動画やクイズ等で、天気や雨の日を使う道具に関心を持ち、体験的な活動を通して自分自身の生活と重ねながら楽しく学習する児童の様子が見られた。

## イ 課題

防災に関する他学部での学習内容、取組について、職員が知る機会をつくる必要がある。系統的かつ段階的な学習を行うため、防災を児童生徒に身近に感じられるよう楽しく伝えていくために、職員がより多くの引き出しをもつことが大切だと考える。防災主任を中心に、各学部の取組を収集して発信していくようにする。

学習した内容を般化できるよう、日常的に積み重ねる学習を大切にする。また、学習した内容を家庭と共有しながら取り組むようにする。

## (2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

### ア 成果

倒壊箇所を設定したことで、児童生徒、職員が「より安全な避難経路を判断しながら避難する」という体験をす

ることができた。倒壊箇所を見つけると、職員が声を掛け合いながら主体的に周囲に危険を知らせる姿が見られた。

残留者を各学部に想定して実施したことで、残留者がいた場合の連携方法（「誰が」「何を」「どんな手段で」）を明確にすることができた。また、残留者と一緒にいる職員、主事、管理職、養護教諭、事務職員等それぞれの職員が、残留者がいた場合の動きを意識して訓練にあたることができた。

また、「避難訓練事前学習内容例」を作成し、事前に全職員で共有したことで、児童生徒の実態に応じた事前学習を実施することができた。

避難訓練を通して職員の防災に対する意識の向上が見られ、実際に地震が起きた場合「自分のクラスでは、このような状況になるかもしれない」「このような動きが必要になるかもしれない」「難しい場合はどう動いたら良いか」「残留者がいた場合を体験してみたい」など、多くの職員から気付きや感想、主体的な意見が挙げられた。

4月に行った引き渡し訓練（ドライブスルー形式）は、雨天での実施だったため、児童生徒の待機場所や職員用の準備物（誘導時使用する雨合羽、誘導灯、トランシーバーイヤホン、防水のファイル等）について、新たな気付きがあった。

各種訓練後は職員アンケートを実施した。アンケート結果をもとに、気付きや課題点等を集約し、マニュアルの見直し・改善や訓練の改善に繋げることができた。

### イ 課題

訓練を実施する時間帯を検討する必要がある。本校では、様々な時間帯に初期対応訓練、避難訓練を行っているが、

給食中やその前後は行っていなかった。今後は、あらゆる状況を想定して、実施の時間帯の検討を行う。

来年度の校舎移転に伴い、新校舎の学校防災を整備するとともにマニュアルの見直し・改善を行う。また、併設する多良木中学校と連携し、移転に向けて防災を強化していく。

### (3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

#### ア 成果

推進委員会、研修会、先進地視察、公開授業避難訓練の参観を通して、災害への具体的な備え、災害発生時の動きなど、幅広い視点から防災について学ぶことができた。各種研修や、先進校の取組、他校の実践を知ることで、本校での防災教育や安全管理について見直す機会になった。

防災主任を経験し、防災は、一人一人が考え学ぶことが大切であると同時に、組織的に取り組むことが重要だと感じた。参加した研修の校内での復講、資料の回覧等により、習得した知識等を全職員で共有することで、多くの職員の協力を得ながら、新しい取組（授業づくり、各種訓練）を推進することができた。

#### イ 課題

地域、学校の実情に応じた取組の検討が今後さらに必要である。地域と合同の防災訓練への参加を積極的に行う。

### (4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

#### ア 成果

危機管理マニュアルの見直しを行った。様式を、各種災害ごとにフローチャート式に改め、役割と行動がより分かり

やすくなるよう改善した。改定マニュアルは、職員への周知を行い、全職員が電子データでいつでも確認することができるようにしている。

#### イ 課題

職員一人一人が各自の役割分担や緊急時の対応要領を確認する機会が少ない。年度末や人事異動の年度当初、各種訓練・研修等を実施した後など、見直しと共通理解の機会を設ける。

### (5) AEDを用いた心肺蘇生法

#### ア 成果

職員を対象に6月にAED及び心肺蘇生法の研修を行った。消防署職員からの説明を受け、グループに分かれての実技を行った。職員全員が人形を使ってAEDの使い方や心肺蘇生法について確認することができた。

高等部では、AED+CPRトレーニングキットを活用して、「保健」の学習で心肺蘇生やAEDの使い方について学習することができた。

#### イ 課題

応急手当や救命に関する学習においては、児童生徒に身に付けたい力について職員間で共通理解を図りながら授業を行う必要がある。養護教諭等と連携しながら、より児童生徒の実態に応じた学習内容となるよう取り組んでいく必要がある。